

## 誰のためのがまん？

東京大学大学院 教育学研究科 教授  
針 生 悦 子



マシュマロテストをご存じでしょうか。検査者は、幼児の前にマシュマロを一つ置き、次のように言います。「これから私（検査者）は別の部屋で仕事をしてこなくてはならないの。その間にこのマシュマロが食べなくなったら、ベルを鳴らして私を呼んでね。そうして私が戻ってきたら、このマシュマロを食べていいですよ。でもね、もし私が戻ってくるまでベルを鳴らさずに待っていることができれば、マシュマロはもう一つ、つまり合わせて二つあげますよ」こうしてマシュマロとともに部屋に残された幼児は、検査者が戻ってくるまで待ってられるのか、それとも、待ちきれずにベルを鳴らしてしまうのか。それを見れば、子どもの「がまんして待てる力」がわかるというわけです。

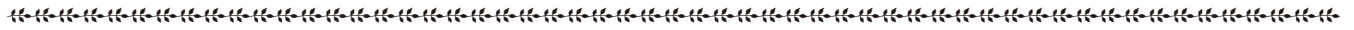
その後、このテストの開発者であるミシェル博士が、テストを幼児期に受けた人たちを追跡したところ、幼児期にマシュマロテストで待つことのできた子どもたちは、そのあとも学校ではより良い成績をあげ、社会に出たあともほかの人とよりうまくやっています。どうやら子ども時代の「がまんして待てる力」は、その後の人生の成功につながっているようです。

そのころ、別の研究グループは、幼児期に教育的介入を受けた子どもたちのその後を追跡して、人生の成功を導くのは、IQ（知能）ではなく、それ以外の何かであることに気づきました。もう少し詳しく述べますと、介入教育の対象となった貧困家庭の子どもたちは、幼児期に2年間プリスクールに通って手厚い教育を受け、親たちも週に一度の家庭訪問と月に一度のグループワークで子育てについて指導を受けました。こうしてすぐに子どもたちのIQは上がったのですが、その効果は長続きしませんでし

た。いったん上がった子どもたちのIQは、この教育的介入が終わって数年もすると、そのような介入を受けなかった子どもたちと変わらないレベルにまで下がってしまったのです。

もっとも、この子どもたちをさらに追跡していくと、幼児期に介入教育を受けた子どもたちは介入教育を受けなかった子どもたちに比べて、高校を卒業する率が高く、犯罪をおかして逮捕される率も低く、40代になったときの収入や持ち家率も高くなっていました。IQの効果はあっという間に消えてしまったわけですから、これらの成功を導いたのはIQではありません。おそらく、介入教育の中で育まれた“IQ以外の何か”が効いているのですが、その“IQ以外の何か”とはいったい何なのでしょう？ となっていたところで、マシュマロテストの知見は、「がまんして待てる力」がその有力な候補であることを教えてくれました。

それにしても、マシュマロテストの話、「子どもはそんなにマシュマロが好きなのか！？」と考えてモヤモヤした方はいらっしゃるのではないでしょうか。実は「マシュマロテスト」というのは比較的最近になって付けられたあだ名です。実際のテストでは、子どもはまず何種類ものお菓子の中から自分が一番好きなものを選び、それがごほうびとして使われました。つまり、このテストが測定していたのは、ただ「がまんして待てる力」ではなく、「自分が選んだ目標のためにがまんして待てる力」だったのです。がまんだけの人生はきつとつまりません。がまんは、自分が心から実現したいと思える目標とセットになって初めて私たちの人生を豊かにしてくれるのです。子どもたちががまんについて学ぶのもそのような場面であってほしいと思います。



## 情報のデジタル化

情報のデジタル化が進み、新しい情報がいつでもだれでも手に入る状況になってきました。誰でも同じ情報を手に入れることができる社会は大きな意義があるのですが、いつの間にか新しい情報が正しい情報として捉えられ始めていることが気になります。人が思考するとき、新しい情報と共に古い情報とのバランスを取り、その他の要素を加味してことを判断していきます。この思考回路には無意識のうちの新しい情報だけが正しいものではないという判断が働いていると私は思っています。

ChatGPT は人の問いに対して、口語体で回答を返してくれます。この基本回路を設計した人は、どういう回答が好まれるのかを考えると同時に、どの割合で好まれない回答が存在するのかを意識して回路を設計したのでしょうか。疑問に対しての回答が正しいものかどうかの判断は、最後は人がしなければならぬのですが、回答を人工知能に任せるとどうしても多くの人と同じ回答を正しいものとして受け止める習性が生まれてくるのではないかと懸念しています。

民主主義の基本は様々な意見の集合体の中に少数の意見が存在し、その意見が尊重されながら多くの意見の基に従うことが原則です。国民の意見が同一方向に集約された時に国家の方針に間違いが起こ

り、国の判断が間違っただけになることは歴史が証明しています。

日本の幼稚園教育は、様々な地方の方々がそれぞれの地域に幼児教育が必要と感じた方の思いで幼稚園教育が普及してきました。公立も大きな役割を演じてきたのですが、対象人口の90%の人が多様な思いで設立された私立幼稚園が担っているというのは世界でも類を見ない制度だと思っています。

“幼稚園教育要領”も国の基本的な考えを示しているのですが、哲学的な表現が使われていたりして様々な解釈が可能な表現になっています。何かができるようになるといった単純な表現は使われていません。その解釈の多様性を認めつつ同一の方向性を示すという独特のものとなっています。小学校以降の義務教育と基本的にその立ち位置が違ってきます。

幼児教育の質の向上は、これだけ幼児教育に公的資金が投入されるようになった時代、積極的に取り組まなければならない重要課題です。ただ、評価によってそれぞれの幼児教育機関が同質な方向に向かなければならないというベクトルが働くことは良いことではありません。従来の良さを尊重しながら、それぞれがより良いものに努力し変化していく姿勢が評価される仕組み作りが重要だと考えています。

### 第 38 回

## 全日本私立幼稚園連合会 設置者・園長全国研修大会

全日私幼連の第38回設置者・園長全国研修大会は、来る10月23日(月)・24日(火)の2日間にわたって、山形県山形市で開催いたします。研修会の詳細等につきましては、次号にてご案内いたします。なお、8月上旬から幼稚園ナビよりお申込みを開始いたしますので、ご確認下さい。

日程：10月23日(月)・24日(火)

会場：山形県山形市・ホテルメトロポリタン山形

<https://navi.youchien.com>

